

令和7年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価計画

令和7年4月

◎A回答…より肯定的回答 ○A+B回答…肯定的回答

	重点事項	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (A回答・A+B回答)	判定基準	備 考 (R6最終結果)
1	学力向上に向けた計画的実践	(1)学力向上に向けた授業改善等	研究主任	「単元を貫く問いにせまる授業」を重点目標として、授業力の向上に取り組んでいる。	【生】授業がわかりやすい。 【保】学校は、分かりやすい授業や学力向上(学習内容の定着)に努めている。 【教】活用力(思考力・判断力・表現力)を高める指導を行っている。	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	CまたはDの場合、教科部会で再検討	【生】47%・95% 【保】27%・83% 【教】31%・96%
			主幹教諭 研究主任	基礎・基本の定着、自分の考えを持つ時間の確保、自分の考えをOUTPUTする場の設定等、教師側の支援や手立ての工夫を進める。	【生】授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。(R7県目標値:95%) 【生】授業では、他者と協力して問題解決している。＜カリ・マネの柱＞	A 50%・95%以上 B 40%・85%以上 C 30%・75%以上 D 30%・75%未満	CまたはDの場合、研究主任・教科代表者会で再検討	【生】42%・97% 【生】35%・90%
		(2)GIGAスクール構想の推進	GIGA推進 リーダー	授業のねらいを達成させるため、効果的に活用されているのかの検証を進めていく。	【教】授業中にICTを活用して指導することができた。(R7県目標値:100%)	A 40%・70%以上 B 30%・60%以上 C 20%・50%以上 D 20%・50%未満	CまたはDの場合、管理職・GIGA推進リーダー・研究主任で再検討	【教】22%・91%
		(3)学力向上ロードマップに基づく取組の推進	主幹教諭 研究主任	タイムマネジメントに対する意識は定着してきているが、質の高いまとめが課題であり、個人が授業を振り返る機会を設定したい。	【教】学力調査の結果を分析し、「学力向上プラン」に基づく指導を行っている。 【教】「まとめ・ふりかえり」、「適用・活用」を意識した授業実践に努めている。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	CまたはDの場合、研究主任・教科代表者会で再検討	【教】17%・87% 【教】21%・91%
			研究主任	学習だけに限らず設定された課題(ゴール)の達成に向けて自分にあったペースで進めていく課程で、計画的に取り組むことができる力をつけていく。	【生】自分で計画を立てて勉強している。(R7県目標値:75%)	A 40%・90%以上 B 30%・80%以上 C 20%・70%以上 D 20%・70%未満	CまたはDの場合、主任会で再検討	【生】27%・75%

令和7年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価計画

令和7年4月

◎A回答…より肯定的回答 ○A+B回答…肯定的回答

	重点事項	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (A回答・A+B回答)	判定基準	備 考 (R6最終結果)
2	生徒指導の 充実	(1)積極的な生徒指導の推進(認めて、褒めて、伸ばす)	生徒指導主事 生徒活動部	引き続き、自己肯定感が高まる積極的な生徒指導を進めていきたい。	【生】自分には、よいところがあると思う。(R7県目標値:80%)	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	CまたはDの場合、生徒指導部会で再検討	【生】36%・89%
		(2)いじめ・不登校への適切な対応	生徒指導主事 生徒活動部	毎月の定期相談やいじめ調査、i-checkなどの取組を分析し、生徒理解に努める。 「ソレイユ」の効果的な活用を全教職員で共通理解し運用していく。	【生】学校へ行くのが楽しい。 【生】いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・85%以上 D 40%・85%未満	CまたはDの場合、生徒指導部会で再検討	【生】51%・95% 【生】96%・100%
			生徒指導主事 生徒活動部	学校の取組を発信することも大切だが、何事においても迅速・丁寧な対応を心がけていく。	【保】学校は「学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組」を発信している。	A 40%・85%以上 B 30%・80%以上 C 20%・70%以上 D 20%・70%未満	CまたはDの場合、生徒指導部会で再検討	【保】21%・74%
		(3)基本的な生活習慣を高める指導の徹底	生徒指導主事 生徒活動部	学校・保護者・地域が連携し、「子どもをより良く育てる」を合い言葉に、連携していきたい。	【生】学校でしっかりとあいさつや会釈ができている。 【保】わが子は家庭であいさつをしている。 【教】生徒は、学校でしっかりとあいさつや会釈をしている。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	CまたはDの場合、生徒指導部会で再検討	【生】70%・97% 【保】59%・91% 【教】57%・92%
		(4)教育相談の充実	主幹教諭 教育相談	新規項目とした教師の結果が高い数値となっている。様々な取組を通して生徒理解に努め、相談したら先生は助けてくれるという信頼関係を構築していきたい。	【生】自分が困ったときに、悩みを聞いてくれたり、相談したりできる先生がいる。 【保】学校は生徒理解に努め、一人一人に応じたきめ細かな指導に努めている。 【教】生徒の努力したことを褒めたり、認めたりしている	A 40%・90%以上 B 35%・85%以上 C 30%・80%以上 D 30%・80%未満	CまたはDの場合、生徒指導部会及び教育相談部会で再検討	【生】41%・82% 【保】23%・76% 【教】52%・100%

令和7年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価計画

令和7年4月

◎A回答…より肯定的回答 ○A+B回答…肯定的回答

	重点事項	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (A回答・A+B回答)	判定基準	備 考 (R6最終結果)
3	信頼される学校づくり	(1)コミュニティ・スクールの推進	教頭 主幹教諭 コーディネーター	地域人材の教育効果は大きいと感じており、本校のめざす生徒像に繋がる取組を実施したい。	【教】学校は、地域の外部人材等を積極的に活用している。	A 50%・80%以上 B 40%・70%以上 C 30%・60%以上 D 30%・60%未満	CまたはDの場合、管理職・主幹教諭・コーディネーターで再検討	【教】30%・87%
		(2)積極的な情報発信と学校公開	教頭 主幹教諭	引き続き、ホームページや学校・学年だより等で学校の指導方針や生徒の様子を発信していく。	【保】学校だよりや学年だより、ホームページ等で学校の指導方針や子どもたちの様子等を知ることができる。	A 40%・90%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	CまたはDの場合、管理職・主幹教諭で再検討	【保】36%・90%
		(3)小中・中中連携の推進	教頭 主幹教諭	業務の負担感を考慮し、小中連携の時期や内容の見直しを図っていく。	【教】小中連携において、教職員間、児童生徒間の交流を通して、相互理解を深めている。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	CまたはDの場合、管理職・主幹教諭で再検討	※新規項目
4	教員の人材育成	(1)若プロの計画的実践	主幹教諭	学年会を中心とした若プロを実施し、若手のニーズに基づいた、校内研修を行っていく。	【教】学年会を中心とした若プロにおいて、職員全体で若手を育てようとしている。	A 60%・80%以上 B 50%・70%以上 C 40%・60%以上 D 40%・60%未満	CまたはDの場合、管理職・主幹教諭で再検討	※新規項目
5	教職員多忙化改善に向けた取組の推進	(1)業務の効率化を図るための取組の推進	教頭 主幹教諭	昨年度の後期より部活動の休業を1日減じたことにより時間外勤務時間は減少した。業務改善意識が低下しないよう、引き続き取組を進めていきたい。	【教】自己の役割が明確で、職務を円滑に遂行しようとしている。 【教】効率的・効果的な取組がなされるような意識を持った働き方(働き方改革)を行っている。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	CまたはDの場合、管理職・主幹教諭で再検討	※新規項目